

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(6月20日～6月26日)

2022年8月11日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ベラルーシ・ロシア両国首相会談(6/20)
- アリポフ・ウズベキスタン首相のベラルーシ訪問(6/20)
- シェイマン前大統領官房長のアブハジア訪問(6/24)
- ベラルーシ・ロシア両国首脳会談(6/25、於：露サンクトペテルブルク)
- ベラルーシ領からウクライナのチェルニヒウ・ジトーミル両州に大規模なミサイル攻撃(6/25)

【ルカシェンコ大統領動静】

- ベラルーシ・ロシア両国首脳会談(於：露サンクトペテルブルク)

会談は要旨以下のとおり。

・ルカシェンコ大統領は、リトアニアがカーニングラードへの鉄道輸送を止めていることに関し、宣戦布告のようなものであるとして非難。

・ルカシェンコ大統領は、北大西洋条約機構(NATO)がベラルーシ・ロシア両国の近隣において訓練を活発化させていることに対称する行動をロシア側に呼びかけるも、プーチン露大統領は、今はその必要はない旨返答。

・プーチン露大統領は対案として、①ベラルーシ軍のSu-25 攻撃機への核兵器運用能力付与を含む近代化改修をロシアで行うこと、②今後数か月以内に地対地ミサイルシステム「イスカンドール-M」をベラルーシに引き渡すことを提案。

・ルカシェンコ大統領は、穀物及び肥料の市場への供給に関し、問題はベラルーシ・ロシアの側にあるのではなく、本件につき両国をつるし上げるべきではない旨発言。

・今次会談では、輸入代替、上海協力機構(SCO)におけるベラルーシのステータス向上についても協議。

・ルカシェンコ大統領は訪露中、サンクトペテルブルク近郊で建設中のベラルーシの積出港の建設現場を視察した他、帰路サンクトペテルブルク空港でドロズデンコ露レニングラード州知事とも短時間会談。

(6月25日 大統領府)

【外交】

- シェイマン大統領特使のアブハジア訪問

・6月24日、アブハジア「当局」は、同日、シェイマン・ベラルーシ大統領特使(前大統領官房長)とブジャニア「アブハジア共和国大統領」がアブハジアで会談した旨発表。

・両者は、ユーラシア統合、投資面・経済面での協力の見通しにつき協議。シェイマン特使はブジャニア「大統領」に、ルカシェンコ大統領からの贈答品を手交。

(6月27日 BPN)

- ゼレンスキー・ウクライナ大統領からベラルーシ国民に宛てたビデオメッセージ

ゼレンスキー・ウクライナ大統領のメッセージは要旨以下のとおり。

・ベラルーシは今や、ロシアによるウクライナ侵略が始まった2月や春季よりも戦争に引きずり込まれている。

・ベラルーシの人々がウクライナを支持して戦争に反対であるからこそ、クレムリンはベラルーシを戦争に引きずり込み、ウクライナとベラルーシの間に憎悪を植え付けようとしている。

・ベラルーシ人は、ベラルーシが参戦しないようにすることができると確信。ベラルーシ人の命はベラルーシ人自身のものであって、クレムリンの誰かのものなどではない。

(6月26日 ウクライナ大統領府)

●ベラルーシ・ロシア両国首相会談

(1)ゴロフチェンコ首相の発言

・ベラルーシ・ロシア両国は、未曾有の制裁による圧力という状況下で経済を支えるため、協調して様々な措置を実施。

・制裁に対抗する上で、28の連合国家プログラムは大きな助けとなっている。ごく近いうちに同プログラムは拡大する予定。

(2)ミシュスチン露首相の発言

・西側の制裁は全面的な経済戦争に匹敵するものであり、ロシア・ベラルーシ両国民の生活の質を悪化させることを狙ったもの。

・ロシアはベラルーシとの善隣・同盟関係を誠意を持って大切にしている。

・連合国家の統合深化に向けた983の活動のうち、既に3分の1以上が達成されており、統一社会経済圏の創設、産業・電力・交通の各分野における協力深化には、特に優先的な取り組みがなされている。

(6月20日 国営ベルタ通信)

●アリポフ・ウズベキスタン首相のベラルーシ訪問

・6月20日、アリポフ・ウズベキスタン首相は、ユーラシア政府間評議会出席のため、ベラルーシを訪問。

・両国首相は「ハイテクパーク(情報通信技術・スタートアップ特区)」、国営建機メーカー「アムコドル」を視察。

・両国首相会談においてゴロフチェンコ首相は、西側諸国の対ベラルーシ制裁という状況下にあっても、ベラルーシ・ウズベキスタン二国間の貿易高が成長していることを指摘。産業分野でのさらなる協力の進展の他、木材加工、保健・製薬、教育分野等においても協力拡大に意欲を表明。

(6月20日 国営ベルタ通信)

【内政】

●ベラルーシ国内で、ロシアによるウクライナ侵略に反対の立場を表明して拘束された人は1,500人以上

(6月23日 人権団体「ベラルーシにおける拷問を究明する国際委員会」、BPN)

●人権団体「ヴァスナ(春)」による人権状況に関する発表

・2020年5月から2022年4月中旬までの間に、政治的理由で刑事訴追された人は少なくとも2,600人以上。

・同期間に、社会的・政治的活動を理由に判決を受けた人は1,600人以上。

(6月24日 BPN)

【治安・軍事】

●ベラルーシ領からウクライナのチェルニヒウ・ジトームル両州に大規模なミサイル攻撃

・ウクライナ国防省は、ロシアがベラルーシを参戦させようと画策しているとして非難。

(6月25日 BPN、Zerkalo)

●ベラルーシ軍は、軍備管理に関する国際条約に基づく査察の受け入れを再開

(6月20日 国防省)

●国防省は、ベラルーシ駐在各国武官をウクライナ国境視察に招待

・ブレスト州マロリタ地区において、国境の防備強化の状況を紹介。

(6月20日 国防省)

●国防省：南東部ゴメリ州における動員演習を実施

・6月22日から7月1日にかけて、ゴメリ州で、予備役兵を召集して動員演習を実施。同演習には特殊作戦軍も参加。

・動員される予備役兵の数は不明。

・6月22日、ウクライナのジトームル州の北に位置するゴメリ州エリスク地区で、民間施設の周囲に土嚢が積み上げられており、地元軍事委員会が住民に対し、パニックにならないよう呼びかけている。

(6月22日 国防省、Zerkalo)

【経済】

●ベラルーシからの農産品輸入に関するダンクヴェルト露連邦動植物衛生監督庁長官の発言

ダンクヴェルト長官は要旨以下を述べた。

・ベラルーシからロシアへの生乳・食肉の輸入は 5%～7%減少。

・ベラルーシとウクライナ及びポーランドとの国境が閉鎖されたことに伴い、両国で調達されていた製品が減少し、空いた隙間をベラルーシ製品が埋めたことにより、輸出に回せる分が減少したと考えられる。

・違反の摘発に関して言えば、露動植物衛生監督庁はベラルーシ側と常に連絡を取り合っており、ロシアからベラルーシに摘発された違反を通報し、ベラルーシ側も措置を講じている。

(6 月 22 日 露タス通信)

●米国のコンピューター・ネットワーク機器のメーカー「Cisco」は、ベラルーシ・ロシア両国から撤退を決定

(6 月 23 日 Cisco 公式サイト、BPN)

【抗議勢力の動き】

●「カリノフスキー・フォーラム」の開催(於: 欧州議会)

・チハノフスカヤ民主勢力代表は、ベラルーシ人に対する査証発給や、ベラルーシ人留学生の受け入れ等の教育関連への取り組みを訴え。

・ラトウシコ元文化大臣は、「ロシアによる占領とルカシェンコ体制からのベラルーシ解放計画」への支持を訴え。政権移譲のための政府を設立し、解放のための全国的な行動の後、選挙の実施を提案。

(6 月 21 日 チハノフスカヤ民主勢力代表事務所、BPN)

●チハノフスカヤ民主勢力代表事務所は、ベラルーシのビジネスの問題に関する作業部会を設立

(6 月 22 日 チハノフスカヤ民主勢力代表事務所)

(了)